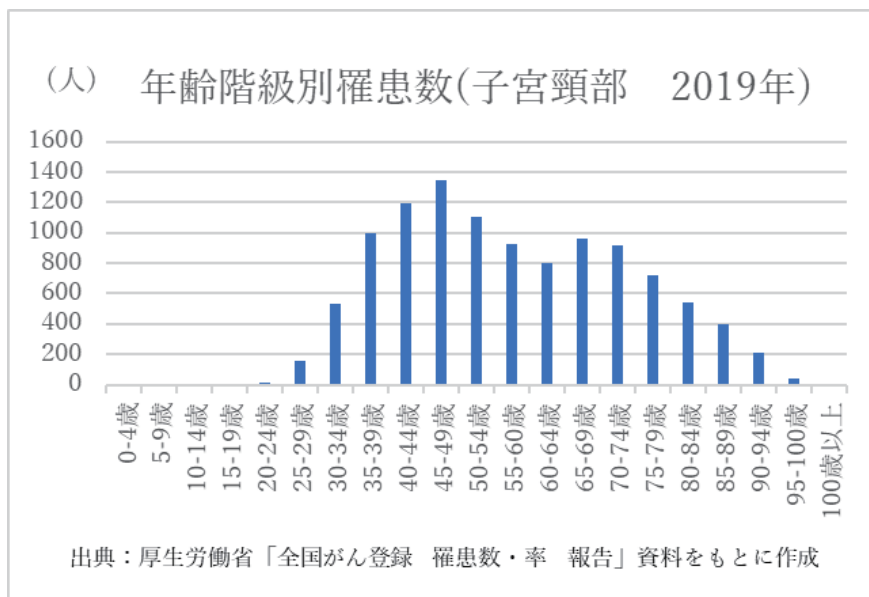


1 はじめに

子宮頸がんは子宮の入り口である子宮頸部にできるがんで、20歳代後半から徐々に増加し、30歳代後半から40歳代にかけて多くなります。日本では毎年約1.1万人の女性がかかる病気で、約2900人の女性が亡くなっています。

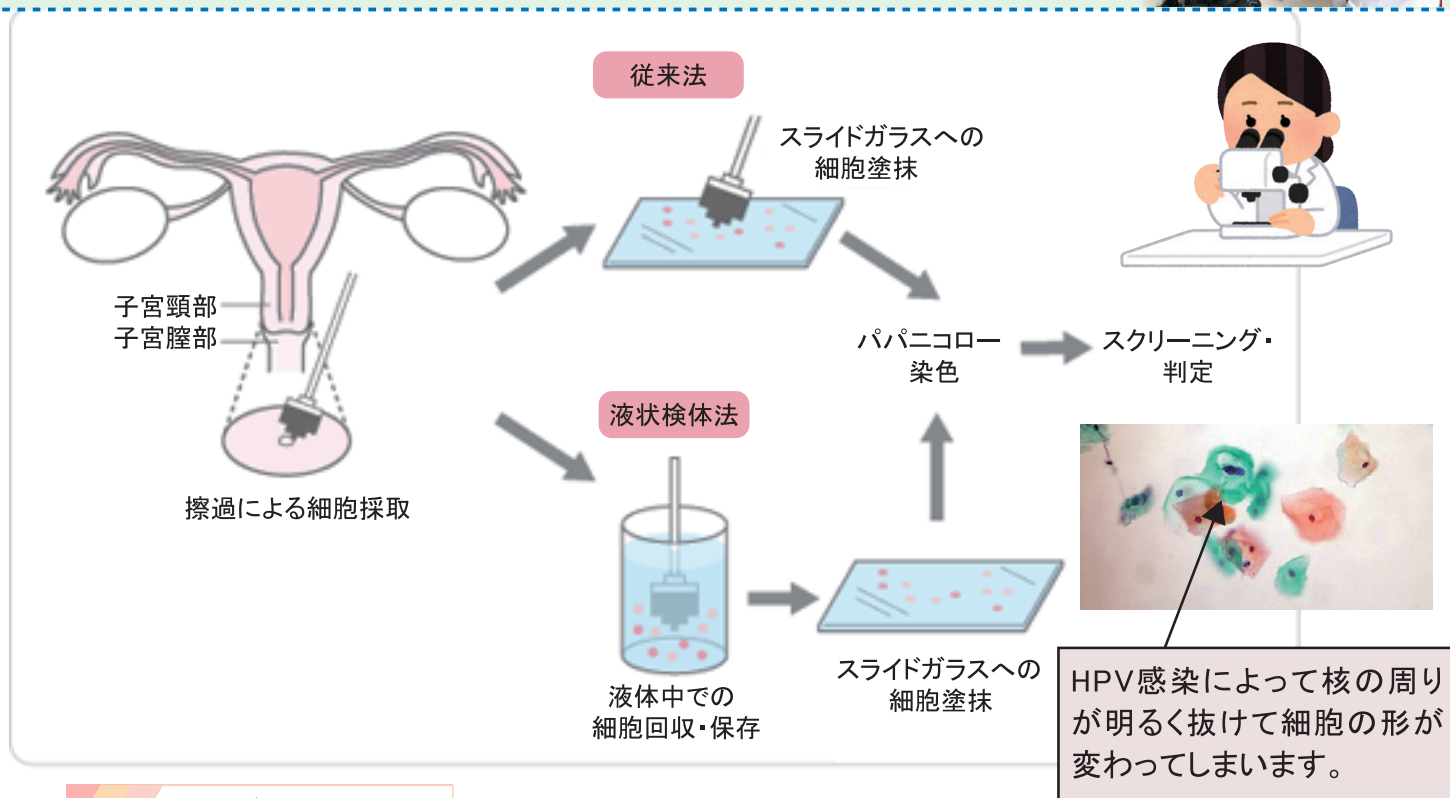
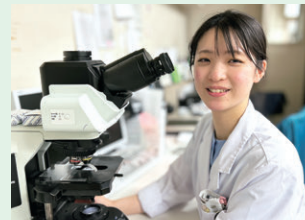


子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス(HPV)によるもので、130種類以上あるうちの15種類ほどが子宮頸部に存在すると頸がんの発症につながることが分かっていますが、感染したすべての人に発症するわけではありません。そのうちの少数例ががんへと進行します。しかしながら現在ではどのような人が子宮頸がん罹患しやすいかは分かっていないため、検診を定期的に受けることが大切です。今回は当院での子宮頸がん検診における液状化細胞診(LBC法)の検査方法についてご紹介していきたいと思います。

2 液状化細胞診 (Liquid Based Cytology: LBC法) とは？

子宮頸部を先端にブラシがついた専用の器具で擦って頸部表面をおおっている細胞を採り、速やかにブラシを専用保存液に入れて細胞を浮遊させることで、塗抹標本作製する方法です。この塗抹標本でがん細胞がないかを顕微鏡で調べます。

このLBC法では、ブラシで採った細胞を無駄にすることなく診断に必要な細胞をみることができ、細胞乾燥がないので細胞変性が少ないこと、機械によって標本作製を行っているため厚さやムラが生じず、不適正標本が減少すること、といったメリットが多くある検査方法です。特に不適正標本が減少すると再検査が減り、女性の体への負担や精神的不安の軽減にもつながります。



3 最後に

子宮頸がんは初期の段階ではほとんど無症状で、子宮頸がん検診によってみつかることが多いがんです。初期の段階で発見することができれば子宮腔部の異常な組織を一部取り除くことによって子宮は温存することが出来ますし、発見が早ければ早いほど高い確率で完治を目指すことが出来ます。

子宮頸がんを予防するのに重要なことは

1. HPVワクチンでHPVの感染を予防
2. 子宮頸がん検診でがんをはやく見つけること

の2つです。20歳になったら、子宮頸がんを早期発見するために2年に1回の子宮頸がん検診を受けることをお勧めします。

出典：厚生労働省HP 国立がん研究センターHP 公益財団法人日本産婦人科学会HP
病理学/病理検査学(医歯薬出版)

櫛会からのお知らせ

関東中央病院 糖尿病教室と糖尿病患者の会「櫛会」例会 ハイブリッド開催(現地開催およびWeb開催の併用)のお知らせ

日時:2024年3月21日(木) 10:00~12:30(会費無料)

会場:関東中央病院 2階講堂

参加は「櫛会」会員様に限らせていただきます。事前に内科受付で糖尿病教室の申し込み用紙を貰い、⑭番窓口でお申し込みください。先着50名様限定とし、参加費は無料ですが、昼食はご提供出来ませんのでご承知おき下さい。

櫛会会員の皆様には、事前にお送りする定期刊行物に、『Zoom』利用の際のURL並びにミーティングIDやパスワード等を同封いたします。

*「櫛会」入会をご希望の方は、ご自身のお名前・住所・電話番号を記載し、葉書で下記にお申込みください。
〒158-8531 東京都世田谷区上用賀6-25-1 関東中央病院 櫛会宛